

令和6年度 学校評価報告書

学校番号(小54) 長崎市立(南 陽 小)学校

1 教育目標

「光り、輝く、チーム南陽小」
〈合言葉〉「太陽のように光り、輝け！仲間と共に笑顔いっぱい！」

2 学校経営方針

○学校や地域の特色をふまえて、児童や保護者、地域の願いを取り入れながら、激しく変化し続ける時代において、心身ともに健康で柔軟かつ創造的な思考ができる豊かな人間性を育む。
○主体的に社会に貢献するとともに、多様性を理解し、共生社会を築くための力を育み、将来の夢と希望を抱いた子どもの育成を図る。

3 重点目標

- 1 確かな学力の向上
- 2 健やかな心と体を育成
- 3 学校・家庭・地域の連携による教育の充実
- 4 子どもが安全・安心に学べる教育環境の整備

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児 童 生 徒	保 護 者	教 職 員	
学校経営	教 育 目 標	教育目標を達成している	97	96	100	昨年度の結果と比較すると、わずかに下回る結果となったが、おおむね高い評価結果となった。組織運営と業務改善に関しては、職員の資質や能力を踏まえながら、前任者や引継ぎ文書等のサポート体制を充実させることで改善を図りたい。
	学 校 の 雰 囲 気	明るく楽しい雰囲気である	90	96	100	
	組 織 運 営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			95	
	業 務 の 改 善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			89	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	87	89	74	おおむね高い評価となったが、「ルールやマナーを身に付けている」に関して、児童の評価と教職員の評価が昨年度を大きく下回る結果となった。このことは、学校全体での規範意識が高まったことで、自己評価を客観的な視点で厳しくとらえた結果だと考える。「あはは運動」については、昨年度より高い評価となったものの継続的な周知活動が必要である。
		挨拶をよくしている	95	84	89	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	97	76	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	93	93	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	94	83	100	
	人 権 教 育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	98	96	74	
	平 和 教 育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	98	96	95	
	特 別 支 援 教 育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	97	96	100	
確かな学力	特 色 あ る 学 校 づ く り	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	95	95	100	「家庭学習の習慣が身に付いている」では、保護者及び教職員の評価が昨年度よりもわずかに上回ったとはいえ、低い結果となった。学力調査の結果をもとに、学びの習慣化につながる資料等を作成し、学校と家庭が両輪となって子どもたちの学力向上に努めていきたい。
	学 習 指 導 ・ 教 育 課 程	わかりやすい授業を行っている	95	91	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	86	76	61	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	90	88	83	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	96			

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	90	97	100	「基本的生活習慣が身に付いている」について、児童の評価が昨年度をやや下回るものとなった。このことは、基本的生活習慣の定着について、児童の意識が高まってきている結果だと考える。今後も家庭と連携し、健やかな体づくりに努めていく。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	81	85	100	
		体力向上に努めている	78	87	82	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	87	92	100	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	92	96	95	全体的に肯定的評価が高い結果となった。保護者や地域の方が、積極的に学校とかかわりをもってくれているので、地域行事への児童や職員の参加についても促していきたい。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	91	97	100	
	P T A ・ 地 域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	77	98	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			100	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	86	96	95	教育環境の整備については、昨年度と比較し教職員の肯定的評価が高くなっている。修理・修繕等への迅速な対応が結果につながったといえる。今後も教育環境の整備に努めていく。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			100	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

肯定的評価の割合が90%を超える項目が全体の66.7%と全体的に高い評価を得ることができた。特に「心の教育」「確かな学力」「健やかな体」領域において、保護者の評価が昨年度より高くなっており、学校経営方針の重点目標に対する本校の取組が十分であるといえる。一方で児童の評価については、全体的に昨年度をやや下回る結果となったが、教職員や保護者の肯定的割合の高さを考えると、児童自身が調査項目に対して自分を正しく省みることができた結果と考える。「家庭学習の習慣化」に関しては、今後、校内研究を中心に学びの習慣化につながる資料等を作成していく。あわせて、体力向上や基本的生活習慣の定着についても、保護者との連携を密にしながら取り組む必要がある。地域との連携については、総合的な学習の時間における地域学習の位置づけや地域行事への参加について、今後一層の充実を図っていきたい。

6 学校関係者評価

今回の学校評価に対して、妥当であるという評価を受けた。
会の中で、自分たちが住む町に対しての理解、地元教育ができていないという声があった。近年、自治会に加入しない世帯が増えているため、子ども会そのものが運営できない状況にあるとのことだった。塾や習い事、スポーツクラブに参加している子どもの増加や保護者相互のかかわりの希薄さにより、地域で異年齢集団がかかわりあう機会が減ってしまっていることを危惧されていた。
異年齢集団活動の重要性については、縦割り共遊や集団下校、縦割り清掃活動など、学校で意図的に活動を仕組んでいるものの、子どもたちの生活に根差した活動を充実させることが重要であるということだった。地域の大人が周りで見守ることで、地域を大切に思う気持ちや地域に対する誇りが生まれてくるとのことだった。そういった子どもたちのかかわりを通して、保護者のかかわりも充実していくものと思われる。
家庭学習の習慣を定着させるためにも家庭の教育力や地域の教育力を高めていくことが大切であり、学校は夢を描ける6年間、夢を描ける学校であってほしいという声をいただいた。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- 地域理解学習については、生活科や総合的な学習の時間の中で一層の充実を図る。
- 挨拶の励行は、これまでどおり指導を続けていく。
- 「あはは運動」の周知(懇談会や発出文書への掲載・校内掲示等)
- 保護者や地域の方々と教育活動についての情報共有や連携を充実させ、ご理解・ご協力を得ながら、夢を描ける学校を目指していく。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。

<参考例> 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。